

まえがき

私の息子は発達障害を抱えて生まれてきた。息子の成長の過程の中で、彼の自己肯定感を育ててくれる療育施設が必要だと思い、その当時たくさん療育施設に足を運んだ。しかし、そのときに出会った施設は、殺風景で、薄暗くて、古臭いものばかりだった。親も子もげんがりしてしまいそうな場所だ。まるで世の中が障害というものに蓋をして隅に追いやっているような感覚を覚えた。

私は今まで、発達障害の子を持つ親御さんとたくさん話してきた。皆さん言葉は違えど口をそろえて言っていたことがある。それは「明るく華やかな未来を感じることでできる施設に通わせたい」という夢のような話だった。しかし、それは私も含め、当事者の親が抱える願いだ。だからこそ私は、オシヤレな施設をつくらうと考えた。

ただ、「オシヤレ」とひと言で言っても、人それぞれ捉え方やイメージは違う。だから、私には私なりの「オシヤレの5大定義」がある。1つ目は「明るいこと」、2つ目は「華やかなこと」、3つ目は「憧れられること」、4つ目は「自分らしいこと」、そして最後の5つ目が「明るい未来を感じられること」、

これが私の「オシヤレの5大定義」だ。

私のオシヤレにはそんな想いが込められている。

そんな私は、施設をつくるときに、あることを心がけている。それは「障害があるから通う施設」ではなく「障害があるからこそ通える施設」にすることだ。言葉は似ているが、意味は似て非なるもの。障害があるからこそ通えるという逆の優越感を感じることでできるほどの施設にすることが、私の目指す、まだ誰も見たことがない、新しい時代の放課後等デイサービスだ。

私の使命は『福祉×オシヤレ』で世の中の障がいや福祉に対する見方を明るく華やかなイメージに変えること」だ。これこそが私の生涯のテーマであり最大のMISSIONだと自負している。

私も今でこそこんなことを言っているけれど、実は私は起業するまで自分の使命に気づかず、人生を過ごしていた。目の前の仕事に対して、ただ一生懸命に取り組み、慌ただしく日々が過ぎていく、そんな毎日を送っていた。しかし、人は自分の使命に気づき、行動を起こしたとき、信じられないぐらいに毎日がエキサイティングになり、心がワクワクする。もちろんその使命は大きくなればなるほど重く、そして苦しい。けれど、やっぱり最高に面白い。